

基本施策 2-1 緑と生きものを育むまちづくりの推進

施策22

生物多様性^{*36}の保護と回復

■めざす姿(施策の目的)

自然と人間が調和し、生物多様性による日々の恵みを受け続けることができる、自然と共生した社会の実現のためには、生き物とその生息環境を守る行動を起こさなければならないことを全ての市民が理解し、環境保全に係る取組を行っています。

■現状と課題

浅間山、武蔵台緑地、府中崖線や多摩川などの豊かな自然に恵まれ、貴重な生態系が残されていますが、身近な自然環境の一部は、開発等の人間活動により失われつつあります。また、生物多様性に関する認知度はいまだに低い状況にあるため、市民一人ひとりにその意義や現状を理解してもらうことが必要です。その上で、様々な環境保全活動について、幅広い年齢層の市民が個人的あるいは組織的に参加しやすい仕組みが確立され、自然や生態系の保護・回復に係る具体的な取組が、日常生活を含むあらゆる社会経済活動の中で展開されていることが求められます。

■施策の方向性

- 市民、教育・研究機関、事業者、行政等の多様な主体が連携を深めながら、生物多様性に係る行動を始めるきっかけとなる普及啓発活動を、効果的な手法により積極的に展開します。
- 市民と環境保全活動のつながりを生み出す仕組みづくりを推進するとともに、個々の活動が科学的知見に基づいた有効な手法により継続的に実行されていくための支援を行います。また、小中学生を中心とした若年層を次世代の担い手として育成するための環境教育を推進します。



府中市に暮らす多様な生き物たち(上段左から)ニホンアナグマ、ムサシノキスゲ、カワセミ、カブトムシ(下段左から)アオゲラ、ヤマトタマムシ、ホドタヌキ、オイカワ

■指標

指標名	基準値	目標値(R7)	指標の説明
生物多様性の意味を知っている市民の割合	33.7% (R2)	37%	市民意識調査により把握します。
小中学生に対する自然環境教育の実施件数	14回 (R1)	20回	総合学習支援、水辺の楽校事業、親子自然体験イベントなどの実施件数です。

■主要な取組

取組名称	令和4年度から7年度までの取組内容
生物多様性地域戦略推進事業	イベントの開催など、生物多様性の理解につながる普及啓発を行います。生物多様性の保全と持続的な利用につながる行動を市民が日常的に実践していくための情報発信を充実させます。
自然環境保全活動促進事業	市民が気軽に取組を始められる環境や、市民、環境保全活動団体、自治会、教育・研究機関(学生)、行政などの各主体がつながり、相互に活動の担い手を供給する環境を創出します。小中学校と連携し、次世代の担い手の育成を主眼とした環境教育の充実を図ります。

■協働により推進したい取組

- 多岐にわたる生物多様性に係る活動の実施や、活動団体における次世代の担い手の育成に関すること。

■SDGsとの関連



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS